

1 . 評価結果概要表

作成日 平成 19年 6月 1日

【評価実施概要】

事業所番号	0170201180		
法人名	有限会社共同福祉さっぽろ		
事業所名	グループホーム東苗穂・こすもす		
所在地	札幌市東区東苗穂13条4丁目3番21号 (電 話) 011 - 791 - 6555		
評価機関名	北海道社会福祉協議会介護情報調査室		
所在地	札幌市中央区北2条西7丁目		
訪問調査日	平成19年5月30日	評価確定日	平成19年7月3日

【情報提供票より】(平成19年5月16日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 15年 4月 1日
ユニット数	1 ユニット 利用定員数計 9人
職員数	9人 常勤 9人, 非常勤 0人, 常勤換算 6.2人

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り
	2階建ての 1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	50,000 円	その他の経費(月額)	15,000 円
敷 金	有(円) (無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) (無)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,000 円		

(4) 利用者の概要(5月 16日現在)

利用者人数	9名	男性 1名	8名
要介護1	2	要介護2	1
要介護3	4	要介護4	2
要介護5	0	要支援2	0
年齢	平均 82歳	最低 70歳	最高 95歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	勤医協中央病院
---------	---------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当事業所は札幌市郊外に立地し、住環境に恵まれた中で開設後数年が経過し、利用者は思い思いの生活を営んでいる。事業所の運営は、経験豊かな職員が身体介護から介護計画の立案までその経験を活かして実施しており、利用者の生活の安定に繋がっている。併設の通所介護事業所とは研修・職員の異動・利用者の交流などがあり、利用者が在宅時から職員と馴染みの関係を持ち利用できる体制がある。更に運営推進会議では、地域との交流が深まるように検討が開始されており、今後、事業所の運営に地域住民が参加する形が計画されている。利用者と職員の信頼関係は良好に築かれており、サービス提供の場面に活かされているとともに、このような配慮が利用者の表情の豊かさに繋がっている。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の外部評価においての要改善点について、内部で検討会を開催し改善の方向で取り組みがなされている。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
重点項目	管理者・職員は外部評価に対しての意識が高く、随所に評価を意識しながら、且つ自然体でサービス提供が行われている。
	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
重点項目	運営推進会議において、事業所の機能や役割を理解してもらうとともに、災害時の緊急応援や認知症高齢者への理解などについての討議や協力体制についての確認が行われている。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
重点項目	意見箱の活用のほか、家族に対して定期的に便りを発行し、利用者一人ひとりの情報提供を行うとともに、訪問時やカンファレンス開催時にはより具体的に利用者の状況についての話し合いが行われている。また、事業所への意見などもその機会を利用し聴取しており、内容は全体会議等で職員へ周知し、反映する体制がつけられている。
	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目	定期的に町内会や民生委員等と連絡や情報交換を行い、相互の信頼関係が形成されている。また、併設の通所介護事業所と共同で地域への働きかけを行い、事業所への理解を一層厚くしている。

２． 評 価 結 果 （ 詳 細 ）

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○ 印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
．理念に基づく運営					
１．理念の共有					
1	1	○ 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域での生活を重視し運営が行われている。理念は利用者や家族にも非常に分かりやすくつくりあげている。		
2	2	○ 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は各所に提示がなされており、管理者・職員は常に確認している。		
２．地域との支えあい					
3	5	○ 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	農作業を通じて近隣住民と作物の交換などで定期的に交流がある。また、町内会婦人部との交流が活発で、事業所に雑巾の寄贈を受けている。また、事業所では夏祭りを実施し、地域に開放している。		
３．理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○ 評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価は過去２回実施しており、事業所ではその意義について良く理解している。また、前回の要改善項目についての取り組みが早急になされており、運営全般について常に確認をする体制がつけられている。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、夜間における災害非常時・緊急対応時の協力体制・地域における生活の見守りなどについて活発な意見交換がなされサービス向上に活かしている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市主催の管理者会議への出席のほか、区内におけるグループホームのネットワーク化に向けて情報交換・職員交流・合同研修会などの企画が検討されている。		
4.理念を实践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	事業所では毎月便りを発行し、利用者の様子を詳細に家族に連絡するとともに、便りに個別の通信欄を設けて対応している。また、家族の訪問時には利用者の様子を口頭で伝えている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	事業所では意見箱を玄関に設置し、アンケート用紙を用意して家族が意見を出しやすい体制・環境設定に取り組んでいるとともに、些細なことでも家族が訪問時に随時話を聞く体制を取っている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員は併設の事業所への異動もあるが、併設事業所は、利用者の往来が可能であり、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	併設の通所介護事業所と協力し、職員の育成に向けた内部研修会を実施している。また、外部研修会への参加も積極的に行われており、参加後は職員会議等で内容を報告・確認して新しい知識や技術の周知に取り組んでいる。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域に多数のグループホームがあり、常に連絡を取り合っており、今後、連絡協議会を組織するなどの質の向上に向けての検討を始めている。		
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に家庭訪問を行い、コミュニケーションを図っていると同時に、併設の通所介護事業の利用から事業所へ入居となる場合は、事業所間を行き来し、職員との馴染みの関係を形成しつつ、サービス利用に繋げている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらかたまり、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者と職員が過ごす場面ごとに相互の信頼関係を形成するように取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○ 思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	常に利用者本位を念頭にサービス提供がなされている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○ チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画について家族等と十分に話し合いが持たれ、その意見を反映し介護計画の策定がなされている。また、職員は担当制で利用者の細かな状態変化を常に把握し、カンファレンスや申し送りの際に情報伝達を行い、計画見直しの際に反映されている。		
16	37	○ 現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は年2回の見直しを行っているとともに、利用者に状態変化があった場合は随時対応ができるシステムづくりがなされている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○ 事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	併設の通所介護の利用者と事業所の利用者との交流が活発に行われている。また、居宅介護支援事業所の介護支援専門員との連絡や情報交換も密接に行われており、柔軟な対応がなされている。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○ かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関や主治医を中心として、医療の連携が確立されており、利用者の負担が少ないように状況に応じた柔軟な診察体制がつけられている。また、歯科や訪問看護との連携も密接であり、利用者・家族にとって安心できる体制づくりがなされている。		
19	47	○ 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	将来の重度化に対して、家族と話し合いがもたれており、事業所としての対応を家族で選択してもらう体制をつくっている。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○ プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報保護の指針を策定し、家族等に同意を得ている。また、職員の利用者への対応は個人の尊厳を重視し理念に基づき権利を侵害しないケアがなされている。		
21	52	○ 日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	事業所として常に「その人らしい」ということを念頭において支援している。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の身体状況に合わせて、刻み食やとろみをつけるなどの対応がなされている。また、利用者の希望に沿って出前を取ったり、行事用の食事を用意するなど、メリハリのある食事提供に取り組んでいる。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	出来る限り利用者の入浴希望日や時間に沿った対応がなされている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	農作物や玄関周辺での花の栽培・ぬり絵・事業所内の飾りつけなどが行われ、居室に閉じこもらないように支援がなされている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	嗜好品の買い物・散歩など利用者の希望に応じて対応がなされている。また、常に職員が同行するのではなく、数歩離れて見守るなどの支援を行っている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関は常に開錠している。また、玄関は職員の眼から死角になるため、玄関に音センサーを設置し、職員の勤務状況に応じて、使用する工夫がなされている。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防災訓練を定期的の実施し、災害時に備えているとともに、夜間などは町内会・民生委員・運営推進会議メンバーなどから協力を得られる体制にある。また、徘徊についても地域から情報提供がなされる体制がつくられている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通して確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分・排泄などの日々の健康状況について記録がなされているとともに、栄養バランス等については随時医師に相談できる。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	事業所内の共用空間は、利用者が穏やかに過ごせる環境づくりがなされている。また、採光・臭気・湿度・換気などは状況に応じて適切に配慮されている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内には、利用者のそれぞれの思い出の物品が持ち込まれ、好みに合わせて過ごせる環境整備がなされている。		

 は、重点項目。